

故郷の良さを再確認した3年間 「三種町の魅力発信」とその先

三浦 翔悟

(三種町地域おこし協力隊)

1 地域おこし協力隊になるまで

私は秋田県三種町で生まれ、高校を卒業後、 山形県山形市の東北芸術工科大学に進学するために秋田県を出ました。就職したい職業が県外に多かったため、高校入学当初から将来は秋田県から出たいと考えていました。大学ではプロダクトデザイン学科を専攻し、「ものづくり」に関するデザインの基礎を学びました。

大学卒業後は山形にある特注家具・什器製造の木工会社に就職し、設計から製造管理、施工まで、ものづくりに関して一通り携わりました。その後は、ものを販売する仕事を経験したいと思い、京都府に本社がある食品メーカーの営業マンに転身。仙台営業所に配属され、外食産業やスーパーへの業務用商品のセールスで、山形県以外の東北5県を回りました。各地を回る中で、外食産業ではたとえ遠方の地方だとしても、美味しいお店にはお客さんが多く来るという光景を目の当たりしてきました。

三種町から離れているうちに、地元では人口減少が加速し、商店や飲食店も次々と閉店。懐かしのお店がなくなっていく恐ろしさを感じ始めていました。実は私の実家も飲食店を経営しており、いつか地元に戻って美味しい料理で地元を盛り上げたいと思うようになっていました。また、ちょうどその頃、長女が小学校入学に差し掛かっていたため、転勤がなく、自然が豊かで、子育てに適した環境の中で生活をしたいと

考えるようにもなっていました。

そんな時、地元の三種町で地域おこし協力隊を募集していることを知り、地元の新たな良さを学びながら、町を盛り上げたいと決心をして、7年間勤めた会社を退職し、令和4年1月に地域おこし協力隊として着任しました。こうして14年ぶりに妻と子供2人と共に、三種町に帰ってきました。

2 地域おこし協力隊のミッションと1年目

私たち協力隊のミッションは「SNSを活用した町の魅力発信」です。SNSの中でも主にYouTubeを活用した動画投稿による情報発信を行っています。数あるSNSの中でも、YouTubeは幅広い年齢層をターゲットにすることができ、多くの情報を一本の動画で発信することができます。これまで、三種町はYouTube内で「mitane town」というチャンネル名で情報発信をしていましたが、開始当初の登録者数は90人ほどで、ほとんど活用されておりませんでした。

そこでYouTubeを運営していくにあたり、町内外の人同士を結ぶようなYouTubeチャンネルを目指していこうと、チャンネル名も親しみやすく「みたねのむすびch」というネームに変更し再スタートを切りました。また、配信内容も6本にジャンル分けをしました。①三種町の最新情報をお届けする「みたニュース」、②三種町の美味しいものを紹介する「おらほの

"んめ"もの」、③三種町で活躍している人を紹介する「みたねのしゃべりば」、④三種町の素敵な風景を紹介する「"やんべだ"風景」、⑤町内外のいろんなところへ行ってみる「あっこさ行ってみるべ!」、⑥これまでの三種町の歴史を投稿する「あの日の思い出」で、それぞれのジャンルごとに動画作成を進めています。

1年目は、とにかく町のいろんなイベントに参加し、町のイベントの魅力発信に努めました。また、「食」で町を盛り上げたいという思いもあったため、美味しい飲食店探しや町の特産品であるメロンやじゅんさい農家さんのご紹介に重点的に力を入れて情報発信に努めていきました。



(メロン農家さんヘインタビューの様子)

3 あきたふるさと手作りCM大賞に出品!

動画制作は結婚式の余興動画を数本作成した くらいで、ほとんど未経験のまま始めたのです が、独学で携わるうちに動画作成の楽しさに魅 了され、更に三種町の魅力を発信したいと思い、 「あきたふるさと手作りCM大賞」のCM制作 を2年間担当させて頂きました。

1年目は、これまで取材で訪問させていただいた農家さんたちのご協力もあり、三種町の特産品が「じゅんさい」、「メロン」、「梅」、「稲」と、緑色のものばかりということで、「おいしい緑と生きる町」というテーマでCMを作成したところ、審査員特別賞を受賞することができました。2年目は、町最大のイベント「サンドク

ラフト」の裏方の活躍に注目し、本番当日までの準備の様子に焦点をあてた「創る者、支える者」というテーマでCMを作成し、念願の最優秀賞を受賞できました。もっと認知度を上げたいと思っていた「サンドクラフト」のことを、東北6県と新潟県にもCMとして放送してもらえたことはとても嬉しく感動しました。サンドクラフトに関してはこれを機会に実行委員会にも入会し、更に町の活性化に繋げるべくイベント運営にも携わるようになりました。

3年目もCM制作を担当することになっていますので、更に三種町の良さをPRできるように取り組んでいきたいと思っています。



(最優秀賞のCM「創る者、支える者」)

4 三種町のマルシェ「種の市」を開催!

2年目の挑戦として、町の活性化と関係人口の創出を目的とした新たなイベント「三種町のマルシェ『種の市』」を企画し開催しました。私が小学生の頃には、三種町に多くのお店があり、商店街も存在しておりましたが、今ではほとんどのお店がなくなってしまい、町の経済もどんどん衰退してきていると共に、純粋に買い物を楽しむ場がなくなってきています。楽しみが減ることは、町を離れていく要因の一つにもなってしまいます。それならば、新たに買い物を楽しむ場を提供したいと考え、企画したのが「種の市」です。出店者さんには、初出店や新商品のお披露目という「種まき」をして頂き、来場

者さんにとっては、新たな「出会いの芽」が出るようにという思いを込めたイベントとなっております。

「種の市」では、町内外からハンドメイド雑貨、焼き菓子、食器、おもちゃ、衣類、雑貨・インテリア、キッチンカーなど、幅広いジャンルの物販専門の出店者を募り、第一回は三種町町民祭とのコラボで、2日間で32店舗が集まり、第二回は単独開催で惣三郎沼公園に1日で60店舗ものお店が立ち並びました。来場者もおよそ3,000人集まり、中には初めて三種町に来たという方もいて、新たな関係人口創出のイベントへと少しずつ成長してきました。

第三回も今年の10月19日、20日に三種町町 民祭とコラボ開催で予定しております。今後は 「種の市」を、更に三種町を知ってもらえるよ うな町内を代表するイベントにしていきたいと 考えています。



(「第二回種の市」の会場の様子)



(「第二回種の市」出店者の皆さんと種ポーズ)

5 新たな異業種交流の場「みたね会議」開催!

「町の魅力発信」の活動をしていると、町内で活躍する方々と出会うことが多く、出会うたびに自分も頑張ろうと思うことが多々ありました。しかし、人口約14,000人の小さな町でも、実は活躍している人同士がお互いのことを知らないという、なんとも「もったいない」現状がありました。そこで、活躍している方同士を繋ぐ方法としてヒントになるかもしれないと思い参加したイベントが、お隣の能代市で開催された「第一回のしろ会議」というイベントです。

のしろ会議とは、元協力隊の佐藤香蓮さんが 東京都豊島区のイベント「としま会議」を参考 に開催した、新たな異業種交流となるイベント です。内容としては、町内で活躍している方を 4~5名ゲストとして招待し、自分の経歴や活 動内容、町に対する想い、今後やってみたいこ となどを7分間という短い時間でトークライブ をしていただきます。そのお話を聞きに町内外 から参加者が集まり、後半はゲストと参加者の 皆さんで軽食をつまみながら交流会を開催する といった、とてもゆるい会議となっています。

同様の企画である「みたね会議」は、これまでに3回開催してきました。最初は参加している皆さんが緊張で固い表情をしているのですが、最後には会場中にみんなで頑張ろうという一体感が漂い、とても充実した表情で帰っていく方が多いのが印象的です。また、この会議で出会った参加者同士で、新たなイベントを企画したり、新たな団体を立ち上げたりと、次につながる化学反応が起きているのも、この「みたね会議」の良さだと感じています。

町の皆さんの「次の一歩」を後押しできるようなイベントとして、今後も町と協力し合いながら継続していきたいと考えております。



(第二回みたね会議の参加者の皆さん)

6 協力隊任期後に向けた活動

協力隊活動も3年目に入り、任期後に向けた 活動として、地域おこし協力隊のミッションと は別に、大学で学んだデザインの知識を活用し ながらチラシやポスターなどのグラフィックデ ザイン、動画制作などのお仕事も並行して行っ ております。

また、当初の予定であった家業の飲食店経営の手伝いも進めており、新規事業として委託製造の卸売販売の運営も視野に入れながら活動を行っております。力を入れているのは、町の生産者さんとのコラボ商品の開発や、町外の飲食店さんとのコラボ商品の開発などで、将来的には町内に食品加工工場を新設し、新たな雇用を生み出すことが目標です。

魅力ある働き場所を提供できれば、町内に残って生活する人も増えると思いますので、率先して様々なことに挑戦しながら任期後の土台作りを今年は進めていこうと活動しております。



(家業の飲食店の商品開発)

フ さいごに

地域おこし協力隊として三種町に帰ってきたことで、本当に多くの町の魅力を再発見しております。楽しく珍しいイベントが多いことや、美味しい農畜産物も多いこと。自然も豊かで海や山も近い。たくさんの人に三種町の良さをもっと広めたい気持ちがますます増えてきました。町は人口減少が著しいですが、町を存続させていくためにも町の魅力発信は継続が大切だと思います。これからも町を盛り上げる仲間作りをしながら、三種町のPRを引き続き頑張っていきたいと思います。

<担当者から一言>

今回寄稿している2人は、地域おこし協力隊のミッションとして情報発信に取り組んでいただいております。着任時92人だった町公式YouTubeチャンネル「みたねのむすびch」の登録者数は、令和6年8月1日現在783人となり、動画製作による情報発信に大きな成果が出ています。

現在三種町では4人の地域おこし協力隊が活動しています。協力隊の皆さんは積極的に町民と関わりを持っており、役場の私たちが知らない三種町の面白い人・魅力に気付き、関係者を繋いだり、イベントを開催することによって町の活性化に取り組んでくれています。定住に向けた取組もそれぞれ行っていますので、協力隊退任後も町と関わりを持ちながら一緒に活性化に取り組んでいけたらと思っております。

今後も町と協力隊が連携して、住み続けた い町づくりに取り組んで参ります。

(三種町企画政策課 齊藤 亜美)